しあわせのペンリレー No.18

～第二の人生は大学生として再出発～

3月に38年間の教員生活を無事に終えて、4月からは妻の実家の寺院を継ぐために大学生となった。僧侶の資格を取るために、大学で最低2年間授業や実技指導を受けなければならないが、この学生生活が新鮮である。これまでは、教える側であったのが、教えられる側になり、授業を受けてわかったことや考えたことをレポートにまとめていく。これまで知らなかったことや経験したことのないことはとても新鮮で、「わかった」「できた」は、年をとっても嬉しいものである。あらためていくつになっても「学ぶ楽しさ」は変わらないことを実感している。

もう一つ、第二の人生を再出発して感じていることは、目標を持つことの大切さである。これまで、教員として子どもたちや保護者、地域の方々のために全力を尽くし、信頼関係を大切にしてきたが、これからは檀家の方々の安心のために力を尽くし、信頼関係を築いていくことを目標としている。檀家のおじいちゃん、おばあちゃんたちはお寺に何かしらの安心を求めて来てもらっている。挨拶を交わしたり、話をしたりするだけでも安心を感じてもらえる、そんなお寺でありたいと思っている。この目標を実現するために、今は充実した学生生活を送っているが、卒業後もこの目標を持ち続け、人との信頼関係づくりを生きがいとしていきたい。

四日市市　渡瀬幹久